

VII 国際交流

本学部では 20 数年前から活躍してきた学外・海外協力委員会が国際交流の役割を担ってきたが、岐阜大学国際交流委員会の設置に伴い、その名称を医学部国際交流委員会とした。さらに平成 8 年度に岐阜大学に留学生センターが設置されたことをうけ、留学生交流専門委員会と学術交流専門委員会に医学部国際交流委員会から委員を送っている。

医学部が基幹となって推進した大学間交流協定校としては中華人民共和国の浙江医科大学と中国医科大学、フィリピンのサントマス大学があり、留学生の受入れ、研究者の交流、情報交換、共同研究が行われている。外国からの留学による大学院修了者の中には学位取得後、本学部の教員として教育・研究に活躍している人もいる。

- 1 留学生の受入れ体制と状況
- 2 留学生の教育・研究指導の方法と体制
- 3 在学生の海外留学・研修の状況
- 4 教官の在外研究の状況
- 5 外国人研究者の招致の状況
- 6 論文博士号取得希望者の受入れ状況
- 7 海外の大学との交流協定の締結状況と活動状況

1 留学生の受入れ体制と状況

過去 8 年間の受入状況は下表のとおりであり， 年々留学生の数が増加する傾向にある。

年度別，国別外国人留学生数

	平成 2 年度				平成 3 年度				平成 4 年度				平成 5 年度				平成 6 年度				平成 7 年度				平成 8 年度				平成 9 年度			
	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計	国費	県費	私費	計
学 部 学 生			8	8			8	8			9	9			9	9			9	9			9	9			7	7			7	7
大学院学生	10		5	15	10		5	15	10		6	16	12		8	20	13		13	26	14		17	31	13		19	32	11		29	40
研 究 生	1		3	4	7		3	10	8	2	2	12	2		2	4		1		1			1	1		1	1	2	2	1		3
(国別内訳)																																
中華人民共和国	5		8	13	5		8	13	4		10	14	2		12	14	3		14	17	4		18	22	5		20	25	4		26	30
フィリピン	2			2	2			2	2			2	2			2			1	1			1	1			1	1	2		1	3
台 湾			5	5			6	6			5	5			6	6			5	5			5	5			4	4			5	5
チ リ	1			1	1			1	1			1																	1			1
韓 国			1	1			1	1			1	1			1	1			1	1			1	1			1	1			1	1
ミャンマー			1	1			1	1	1			1	1			1																
ブラジル								1	2			3	1			1	1	1		2	1			1	1	1		2		1		1
イ ラ ン	1			1	2			2	1			1	1			1	1			1	1			1	2			2	1			1
イ ラ ク	1			1	1			1	1			1	1			1	1			1												1
バングラデシュ					4			4	6			6	6			6	7		1	8	8		2	10	5		1	6	3		2	5
シンガポール											1	1																				
エクアドル					1			1	1			1																				
パ ナ マ	1			1	1			1																								
ア メ リ カ			1	1																												
スリランカ																													1			1
コロンビア																													1			1
リトアニア																															1	1
計	11		16	27	17		16	33	18	2	17	37	14		19	33	13	1	22	36	14		27	41	13	1	27	41	13	1	36	50

留学生一覧（大学院学生及び研究生）

（平成8年度～平成9年度）

氏 名	国 籍	費用区分	身 分	期 間
MIRBOD FARIBA	イ ラ ン	国 費	大学院学生	1992年1月～1997年3月
TAKEMURA ORLANDO SEIKO	ブ ラ ジ ル	＊	＊	1992年4月～1997年3月
AHMED SHAH MOKADDAS SELIM	バングラデシュ	＊	＊	1992年4月～1997年3月
宋 向 前	中華人民共和国	私 費	研 究 生	1997年4月～1998年3月
楊 文 毅	＊	国 費	大学院学生	1992年6月～1997年3月
CHOWDHURY MD SYED AHSAN	バングラデシュ	＊	＊	1992年10月～1998年3月
劉 波	中華人民共和国	私 費	＊	1993年1月～1997年3月
KHAN QUAYUM ABDUL	バングラデシュ	＊	研 究 生	1993年1月～1996年3月
曾 維 安	中華人民共和国	私 費	研 究 生	1996年4月～1997年3月
張 王 清	＊	＊	研 究 生	1993年10月～1994年3月
SALUNGA THVCYDIDES LAURETA	フィリピン	＊	大学院学生	1994年4月～1998年3月
韓 曉 燕	中華人民共和国	＊	＊	1994年4月～1998年3月
族 曉 剛	＊	＊	＊	1994年4月～1998年3月
FERDOUSI SULTANA	バングラデシュ	＊	＊	1994年4月～1998年3月
劉 新 毅	台 湾	＊	＊	1994年4月～現在
宋 樺	中華人民共和国	＊	＊	1994年4月～1998年3月
姜 曉 雲	＊	＊	研 究 生	1994年4月～現在
吳 志 良	＊	国 費	研 究 生	1994年9月～1995年3月
劉 曉	＊	私 費	研 究 生	1995年4月～現在
RAHMAN RM WAHIDUR	バングラデシュ	国 費	研 究 生	1994年10月～1995年3月
張 宏 明	中華人民共和国	私 費	＊	1995年4月～現在
徐 東	＊	＊	＊	1995年4月～現在
劉 淑 君	＊	＊	＊	1995年4月～現在
王 聖 明	台 湾	＊	＊	1995年4月～現在
譚 志 明	中華人民共和国	＊	研 究 生	1995年4月～現在
江 依 法	＊	国 費	研 究 生	1995年6月～1996年3月
JAMALI MARJAN	イ ラ ン	＊	＊	1996年4月～現在
宋 玉 立	中華人民共和国	＊	＊	1996年4月～現在
趙 宇 彤	＊	私 費	＊	1996年4月～現在
HUDA. MOHAMMAD KADRUL	バングラデシュ	国 費	＊	1996年4月～現在
張 新 斌	中華人民共和国	私 費	大学院学生	1996年4月～現在
張 忠 義	＊	＊	＊	1996年4月～現在
李 軼 琳	＊	＊	研 究 生	1996年4月～1997年3月
溝口クラウジア	ブラジル	県 費	研 究 生	1997年4月～現在
REYES.RIGO DANIEL CAYABA	フィリピン	国 費	＊	1996年4月～1997年3月
LORENZO.FEREGRINA II RAMOS	＊	＊	＊	1996年10月～1998年3月
PREMARAJ THYAGASEEKLY	スリランカ	＊	＊	1996年10月～1997年3月
MONTANO,ADRIANA MARIA	コロンビア	＊	大学院学生	1997年4月～現在
LOAIZA,RODRIGO ANDRES	チ リ	＊	研 究 生	1996年10月～1997年3月
林 為 仁フランシス	中国（台湾）	私 費	＊	1997年4月～現在
王 寧 元	中華人民共和国	＊	＊	1997年4月～現在
趙 立 成	＊	＊	＊	1997年4月～現在
劉 承 旭	＊	＊	＊	1997年4月～現在
王 樹 林	＊	＊	＊	1997年4月～現在
趙 品	＊	＊	＊	1997年4月～現在
谷 照 斌	＊	＊	＊	1997年4月～現在
LINA DAUGELIENE	リトアニア	＊	＊	1997年4月～現在
麻 海 春	中華人民共和国	＊	＊	1997年4月～現在
李 治 宇	＊	＊	研 究 生	1997年9月～1998年3月
PHAM VINH QUANG	ベトナム	国 費	＊	1997年10月～1998年3月
万 小 云	中華人民共和国	＊	＊	1997年10月～1998年3月
于 海	＊	私 費	＊	1997年10月～1998年3月
段 貴 新	＊	＊	＊	1998年1月～現在

2 留学生の教育・研究指導の方法と体制

(1) 岐阜大学には、日本語教育と留学生指導のために留学生センターが設置されており、大学生活に必要な日本語能力を伸ばすことを目的とする日本語補講も柳戸キャンパスで5クラス実施されている。また、医学部の留学生に対しても同キャンパスで初級及び中級のクラスが設けられており、毎週A、B、Cの3つのクラスで非常勤講師による指導がなされている。

(2) 留学生の個別指導に関しては、チューター制がとられており、チューターによる留学生特別指導が入学後2年間(大学院学生は1年間)行われており、日本語、専門教育補充の両面から効果的に留学生を指導している。医学部、医学研究科における留学生の専門教育に関しては、基本的には日本人学生の場合と異なるところはなく、学部においては授業を通じて各教官による指導が、また大学院にあっては研究の指導を通してそれぞれ特定の指導教官の下での指導が中心になっている。

3 在学生の海外留学・研修の状況

医学部学生の海外留学については、医学部の特殊性もあって休学により留学することとなるが、積極性に富んだ学部学生による海外留学がみられる。

大学院学生については、2年以内に限り、外国における研究指導を在学期間に算入することが認められている。

4 教官の在外研究の状況

文部省在外研究員，日本学術振興会派遣研究者制度による長期，短期の海外での研究・指導，文部省科学研究費による海外学術調査研究の他に，教官の海外研修も盛んである。

在外研究の状況（平成8年度～平成9年度）

川島 卓：アメリカ合衆国（大脳運動野機能の生理学的研究 1995年6月1日 - 1996年8月31日）

高岡 健：連合王国（児童青年精神医学・産業社会と精神発達に関する研究 1996年2月16日 - 1996年7月15日）

細江英夫：カナダ（腰椎画像と腰痛との関連に関する研究 1995年12月1日 - 1996年4月30日）

大西弘生：連合王国（肝壊死・再生の連繋機構に関する実験的研究 1996年6月1日 - 1997年3月15日）

佐竹裕孝：アメリカ合衆国（宇宙医学実験に関わるバーチャルリアリティ技術の調査研究 1996年12月18日 - 1997年5月19日）

植木啓文：ドイツ連邦共和国（うつ病の経過についての心理・社会的研究 1997年4月1日 - 1998年3月31日）

土肥修司：アメリカ合衆国（麻酔及び疼痛制御系のシグナル伝達と神経化学的研究 1997年8月15日 - 1997年9月22日）

川島 卓：アメリカ合衆国（バーチャル視覚刺激による大脳ニューロンの反応特性 1997年9月1日 - 1998年2月28日）

杉山保幸：アメリカ合衆国（生物反応修飾物質（BRM）を用いた癌治療の基礎的・臨床的検討 1997年11月1日 - 1998年8月31日）

河村好章：連合王国（レンサ球菌の新しい分類体系の構築に関する研究 1997年12月1日 - 1998年9月30日）

松波謙一：フランス共和国（フランスの宇宙医学、特に前庭神経系に関する調査研究 1997年12月31日 - 1998年1月14日）

過去8年間の海外渡航状況

区 分	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
外国出張	32	44	46	52	57	65	54	82
海外研修	82	87	95	73	78	96	99	82
計	114	131	141	125	135	161	153	164

5 外国人研究者の招致の状況

国際社会の中で、経済大国であり、しかも高度先進国として評価の高い我が国での研究や研究協力を希望する外国人研究者は非常に多く、医学部においても次のとおり関連領域の研究者が専門分野での研究、技術修得あるいは情報交換等を目的として来学している。

外国人研究者招致状況（平成8年度～平成9年度）

[illegible]

6 論文博士号取得希望者の受入れ状況

日本学術振興会の行う外国人論博研究者に対する支援事業によるアジア諸国からの研究者を受入れ、学位取得のための研究指導を行い、また、必要に応じ研究指導者を相手国に派遣し研究指導を行っている。

論博研究者受入れ状況一覧（平成8年度～）

氏 名	国 籍	研 究 題 目	受 入 期 間
Mariette Cerber	フランス	地中海地方の食生活と日本の食生活の比較研究	H8. 3.28～ 4.26
Esperanza C.Cabrera	フィリピン	抗酸菌の薬剤感受性の遺伝学的検出方法	H8. 9.17～ 10.23
Suporn Puapermpoonsiri	タ イ	Mobiluncus菌と細菌性膿症に関する研究	H8.10. 3～ 12.26
Sman Tesana	タ イ	発癌におけるタイ肝吸虫の関与の研究	H9.12. 5～ 10.3.4

研究指導者の派遣状況一覧（平成8年度～）

氏 名	派遣先	目 的	派 遣 期 間
高 橋 優 三	タ イ	論博研究者（日本学術振興会）の研究指導のため	H8.10.21～ 10.30

7 海外の大学との交流協定の締結状況と活動状況

医学部が主軸となって大学間交流協定を結んでいるのは次の 3 大学である。

大 学 名	国 名	協定締結日
浙江医科大学	中華人民共和国	1987年4月22日
中国医科大学	中華人民共和国	1987年8月15日
サントトマス大学	フィリピン	1994年6月14日

交流活動（全学レベルでの大学間交流協定校も含む。）

- ・ 1984 年 8 月 赤星病院長が中国医科大学及び北京医学院を訪問し、特別招待講演及び研究情報交換を行った。
- ・ 1986 年 5 月 磯野学部長が浙江医科大学を訪問し、学術交流及び視察を行った。
- ・ 1986 年 9 月 磯野学部長が中国医科大学を訪問し、学術交流及び視察を行った。
- ・ 1986 年 9 月 山本病院長が浙江医科大学及び中国医科大学を訪問し、学術交流及び視察を行った。
- ・ 1989 年 11 月 浙江医科大学から学長が来訪し、留学生の研究状況の視察及び学術交流を行った。
- ・ 1990 年 8 月 江崎教授が浙江医科大学及び中国医科大学を訪問し、国際交流促進のため情報交換を行った。
- ・ 1990 年 10 月 サントトマス大学から医学部長、理学部長が来訪し、共同研究者の竹内教授を交えて学術交流を行った。
- ・ 1991 年 9 月 立松助教授、奥富講師が浙江医科大学を訪問し、講演及び技術提供を行った。
- ・ 1991 年 11 月 インドネシア大学から学長、副学長及び工学部長が来訪し、学術交流を行った。
- ・ 1992 年 1 月 浙江医科大学から副学長が来訪し、留学生を交えて学術交流を行った。
- ・ 1992 年 10 月 磯野学部長、森教授、宮田教授が浙江医科大学を訪問し、国際交流の促進及び招待講演を行った。
同大学校長から磯野学部長に両校間の学術交流促進の功績に対し感謝状と客員教授の称号が贈られた。
- ・ 1993 年 10 月 浙江医科大学から学長、外事処長が来訪し、医学情報交換及び視察を行った。
- ・ 1994 年 9 月 浙江医科大学、中国医科大学及びサントトマス大学から学長等が来訪さ

れ，医学部創立 50 周年・同附属病院創立 120 周年記念式典等に出席及び学術交流を行った。

- ・ 1995 年 5 月 松永学部長が浙江医科大学及び上海第 2 医学院を訪問し，学術講演及び研究情報交換を行った。
- ・ 1995 年 9 月 松永学部長，岡地事務部長，日比野看護部長が，中国医科大学及び積水譚医院进行訪問し，学術講演及び学術情報交換を行った。
- ・ 1996 年 5 月 浙江医科大学から副学長ほか 7 名が来訪し，臨床医学教育について視察ならびに意見交換を行った。
- ・ 1997 年 5 月 安岡講師がユタ大学，及びユタ州立大学を訪問し学術交流協定書の調印及び学術交流実施に関する打ち合わせ並びに，大学施設の視察を行った。
- ・ 1997 年 9 月 植松教授がユタ大学を訪問し学術交流を行った。
- ・ 1997 年 10 月 興富助教授が浙江医科大学を訪問し学術交流を行った。
- ・ 1998 年 3 月 浙江医科大学から学長，教務処長，国際交流処員が来訪し今後の国際交流，特に学生交流について意見交換を行った。